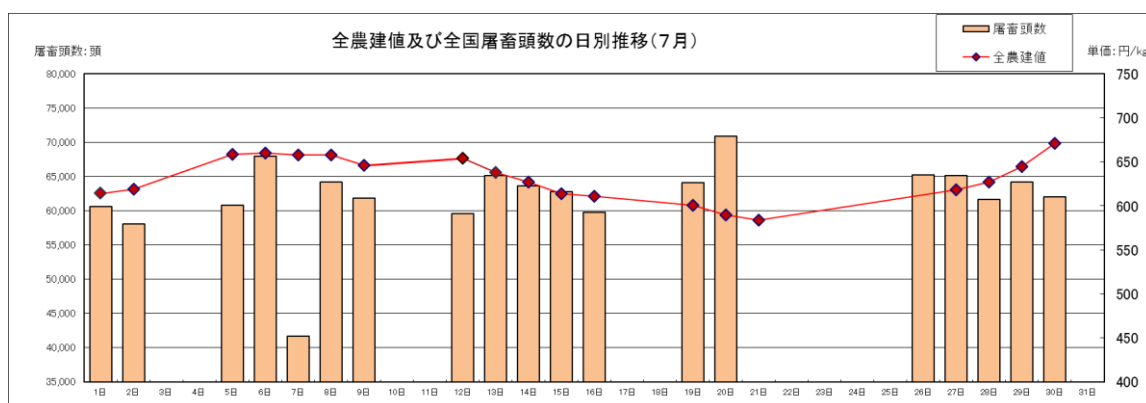


肉豚インフォメーション（7月）

【全農建値】

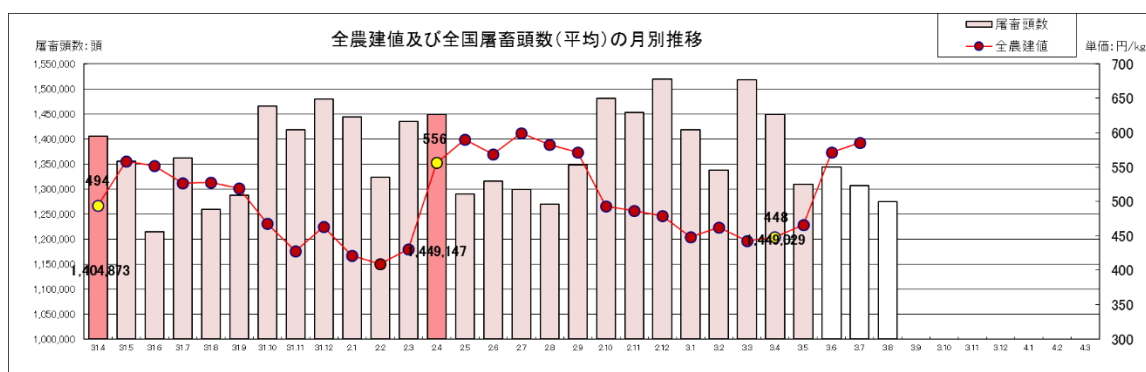
2021 年 7 月（税抜）	2020 年 7 月（税抜）
585 円/kg（14 円安）	599 円/kg

7 月は出荷頭数が少ない状況が続き、上旬にかけて相場は一段高となった。中旬にかけて夏休みが始まることや連休前の出荷増も重なり落ち着いた相場展開となったが、概ね 600 円を超える相場で推移した。



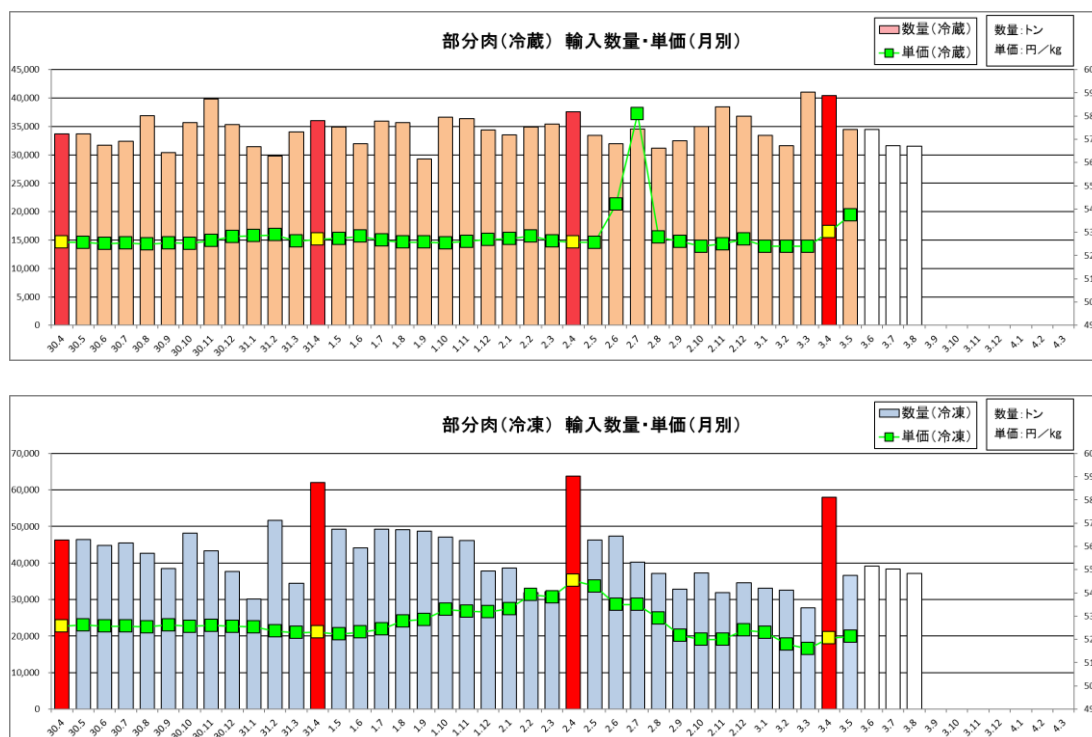
8月以降の動向

8 月の出荷頭数は、やや前年同月を上回ると予測されている。



冷蔵品輸入量は、7 月は、前年同月の輸入量が北米現地工場の作業効率の低下により少なかったものの、北米における現地価格の高騰に加え、カナダにおける一部工場の停止及び山火事の影響による流通の遅延等から、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。一方、8 月は、7 月と同様に前年同月の輸入量が少なかったことから、前年同月をわずかに上回ると予測する。なお、3 カ月平均では、前年同期と同水準となると予測する。

冷凍品輸入量は、7 月は外食需要の減少に加え、アジア諸国を中心とした旺盛な買い付けや北米及び EU 諸国の国内需要の増加による現地価格の高騰等から、やや前年同月を下回る一方、8 月は前年同月並みとなると予測する。なお、3 カ月平均では、前年同期をかなりの程度下回ると予測する。（A L I C 豚肉の需給予測について 7 月 28 日）



7月12日に4回目の緊急事態宣言が東京都に発令されたが、感染拡大ペースが上がり続けていることを受けて、新たに埼玉、千葉、神奈川、大阪の4府県に拡大された。茨城県も国に緊急事態宣言を要請するとともに8月6日に県独自の緊急事態宣言を発令すると発表している。コロナの長期化で自宅での食事が定着してきていることから、引続き家庭内消費の需要は継続するものの、外食需要の低迷は必至だ。

一方で、長引く自粛生活から出前サービスに続いて出張料理サービスが注目を集めている。ホテル・レストランのシェフから管理栄養士の資格を持つシェフ等幅広く、利用する目的別に選べることから今後さらに人気を集めそうだ。

出荷頭数は前年同月をやや上回る予測だが、気象庁は8月も厳しい暑さが続き平年以上の暑さになると予想していることから、増体の遅れなどによる出荷減が予想される。

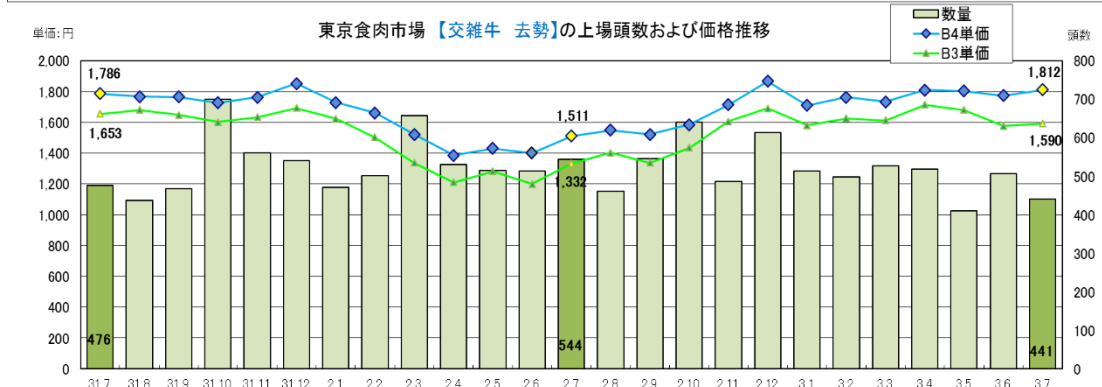
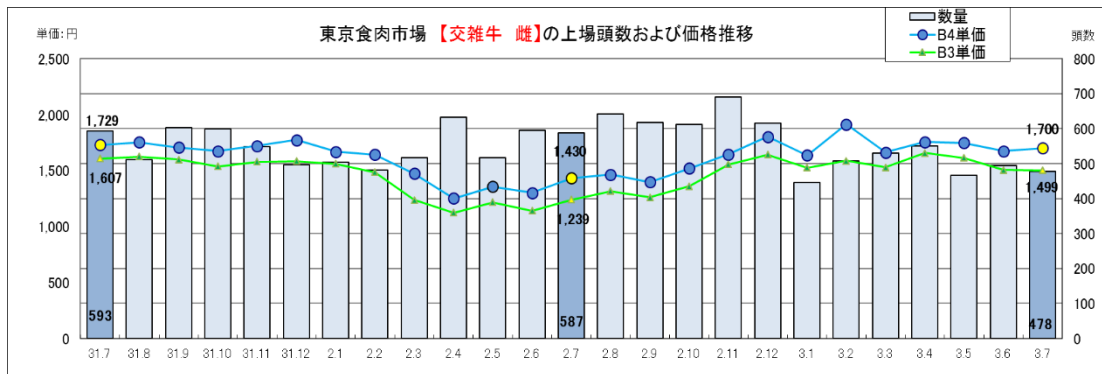
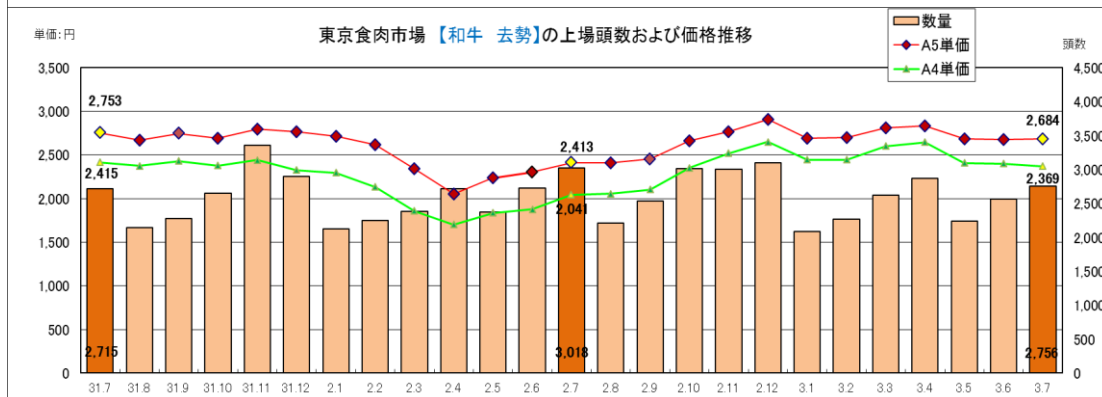
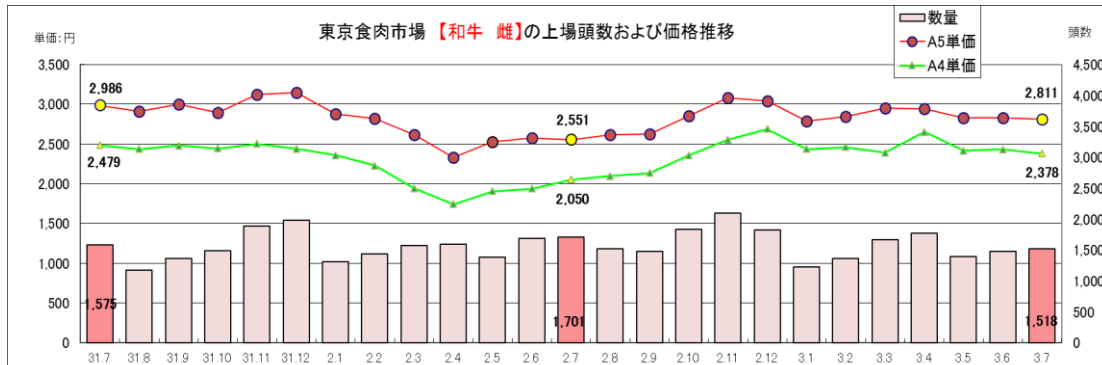
8月の相場は中旬まで強もちあいで推移し下旬にかけて下げる見通し。

全農建値(税抜)予測レンジは550円～650円とする。

肉牛インフォメーション（7月）

● 7月の動向

東京オリンピックや旧盆休みに期待した活発な取引が予想されていたものの、4度目の緊急事態宣言の発出が要因となり、相場は全体的に弱含みの展開となった。



● 8月の動向予測

月上旬は連休と旧盆休みがあるため、まとまった取引が可能な1週目はある程度引き合いが維持されると見込む。月後半はイベント需要等が乏しく、弱含みからもちあいが予想される。

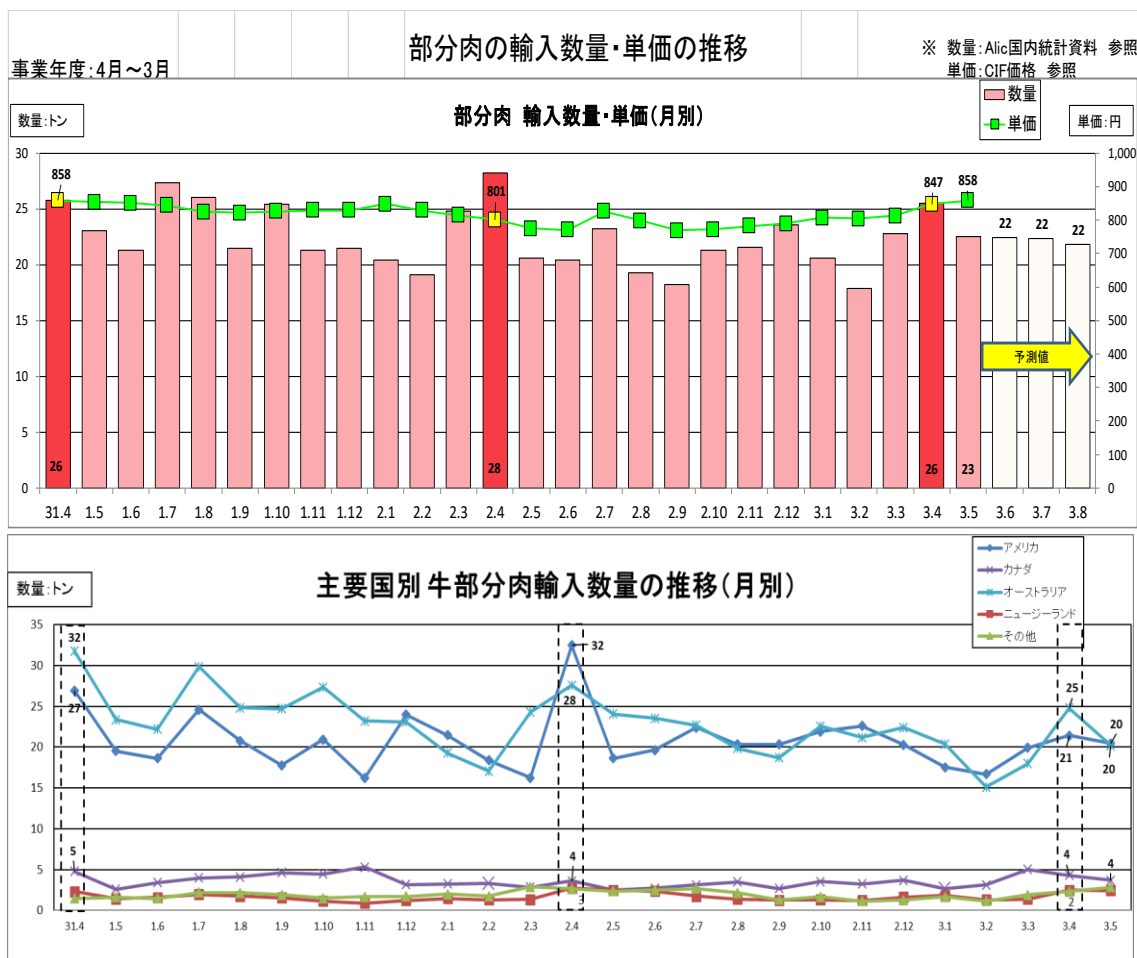
8月相場は「もちあい」の展開と予想。

和牛去勢 A5 等級 2600 円（税込み） A4 等級 2300 円（税込み）

交雑去勢 B4 等級 1800 円（税込み） B3 等級 1650 円（税込み）

● 輸入牛肉

牛肉（部分肉）輸入量は、7月は、前年同月の輸入量が北米現地工場の作業効率の低下により少なかったものの、豪州及び米国における現地価格の高騰等から、前年同月をやや下回ると予測する。一方、8月は、7月と同様の要因に加え、前年同月の輸入量が豪州の干ばつ後の牛群再構築による生産量減少に伴う現地価格の高騰等により少なかったことから、前年同月をかなり大きく上回ると予測する。（A L I C牛肉の需給予測について7月28日）



● 消費動向

例年、焼き材の需要が高まる時期だが、バラ、カタロースの需要は物足りない。オリンピックが開催したもののお祭り感には程遠く、高級部位の利用率が高い外食が動かないことからロイン系は鈍い。テイクアウトなど中食需要は堅調で巣ごもり需要は継続している。

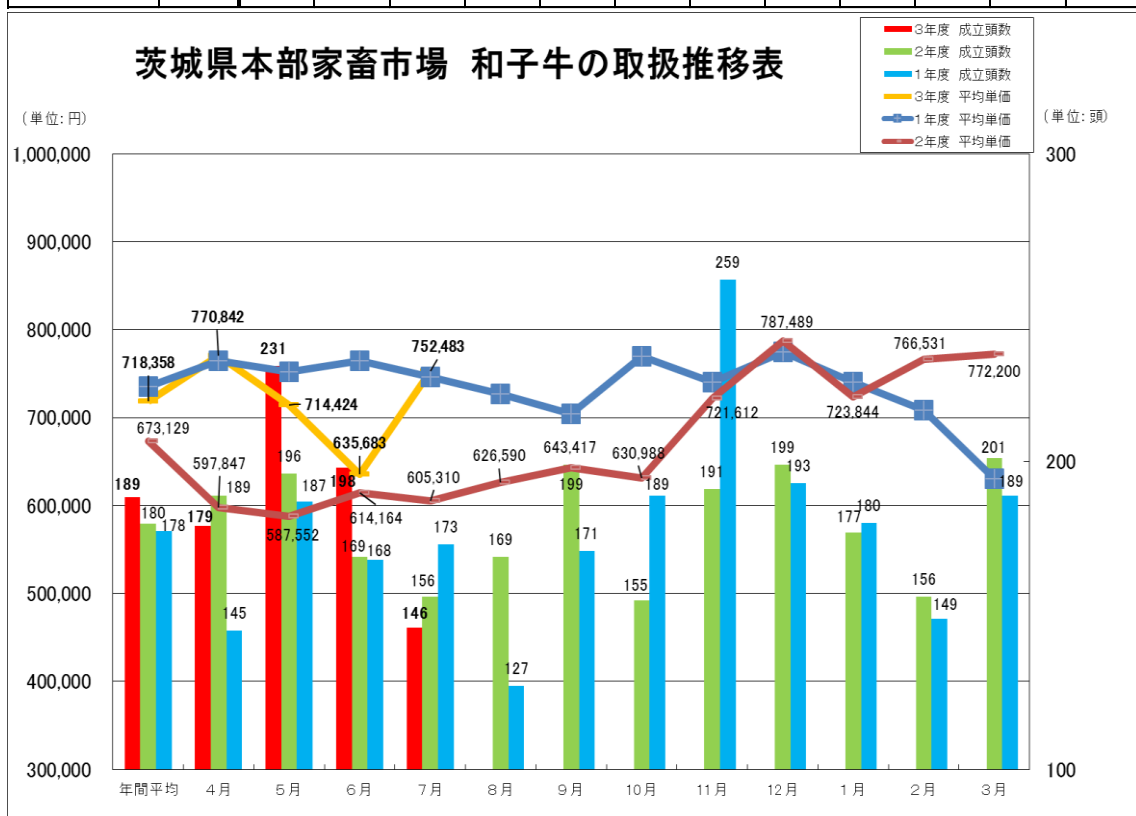
●全農茨城県本部家畜市場動向

全農茨城県本部家畜市場における素牛平均価格（7月税込）は、黒毛和種の雌は68,800円で前月比+98,032、去勢は806,078円で前月比+114,053円とそれぞれ上昇した。上場頭数（成立）は146頭で前月比▲52頭となった。次回上場頭数は180頭を予定。

全農茨城県本部家畜市場実績（和牛子牛）

（税込）

	年間平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年度 平均単価	735,223	764,223	752,015	764,621	746,382	726,806	704,141	769,994	740,279	774,343	740,581	708,666	630,626
去勢	791,182	804,333	799,867	842,908	797,996	801,132	732,566	818,370	797,145	846,297	814,402	757,106	682,060
雌	659,697	707,400	675,585	684,447	680,659	631,348	657,786	702,635	661,359	682,919	639,563	633,657	559,009
2年度 平均単価	673,129	597,847	587,552	614,164	605,310	626,590	643,417	630,988	721,612	787,489	723,844	766,531	772,200
去勢	734,165	649,837	642,142	674,214	650,911	694,492	709,130	714,912	794,798	850,944	799,476	794,563	834,562
雌	598,275	513,364	510,047	545,753	561,990	550,285	562,199	552,310	635,950	707,450	630,022	724,591	685,339
3年度 平均単価	718,358	770,842	714,424	635,683	752,483								
去勢	778,309	835,115	780,016	692,025	806,078								
雌	636,038	694,811	609,771	570,768	668,800								
1年度 成立頭数	178	145	187	168	173	127	171	189	259	193	180	149	189
2年度 成立頭数	180	189	196	169	156	169	199	155	191	199	177	156	201
3年度 成立頭数	189	179	231	198	146								



食肉インフォメーション（7月）

日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査6月度結果報告によると、「全体売上は対前年比100.1%だが、コロナ前の2019年比では77.4%に留まっている。」と報告された。緊急事態宣言は6月20日に沖縄を除く都道府県で解除されたが、解除後も7都道府県はまん延防止等重点措置に移行し、酒類提供の制限や営業時間の短縮などの措置が引き続き実施されたことが影響しており、回復の兆しが見られない。

現在新型コロナウイルスは過去最大の感染拡大をみせるなか、コロナ禍での帰省・外出控えを見越した「おうち焼き肉」を中心とする内食向けの提案が活発化している。行楽需要の期待が薄い環境で、安価なスソ物以外の荷動き良化が期待される。

○牛肉

緊急事態宣言によって外食需要に厳しい見通しがある一方、小売業界も猛暑や調理疲れで精肉よりもデリカや刺身などに消費がシフトしており見通しが悪い。2020年は流通各社が和牛・国産牛を中心に焼肉強化を図ったことで、ロースを含めたパーツの引合いも強かったが、2021年は8月に入ってから発注は少ない状況にある。輸入品は飼料価格の上昇などによる現地価格の高騰により依然として高値を維持している。

○豚肉

依然として続く単価高により、スーパー量販店では特売の回数を減らすなど末端消費が鈍る傾向がみられる。一方で、全国的に気温が高い日が続いたことに加え、豚熱(CSF)発生などによって出荷が減少している。関東など一部の地域では増体悪化による出荷減や、中国の旺盛な買い付けなどによる輸入価格の高騰などの影響で、高値基調は今後も続くと思われる。

○業態別概況

表：全農いばらき食肉センター 業態別取引先実績（令和3年6月期） 単位：千円、%

年度	J A	どきどき	給食	仲卸	食肉 専門店	量販店	飲食店	合計
令和2年6月	12,795	13,999	8,456	39,340	18,440	11,629	3,671	108,330
令和3年6月	12,548	13,903	10,509	34,890	14,300	9,636	9,281	105,067
増減	-247	-96	2,053	-4,450	-4,140	-1,993	5,610	-3,263
対比	98%	99%	124%	89%	78%	83%	253%	97%

- ・令和2年6月の学校給食は、ほとんどの地域で再開していたため、前月までのように前年度比で大幅な伸長はなかった。
- ・茨城県内は新型コロナウイルス新規感染者が小康状態であったこともあり、飲食店（仲卸経由含む）需要は前年より動きがあった。県本部取引先に限っては令和元年実績を上回る実績となった。

※令和元年度6月比でも113%（仲卸・飲食店合算実績：20,839千円）だった。